



しらかば

令和5年度 協働型学校評価の重点目標

「進んで関わりを持ち、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成」
～進んで挨拶、あったか言葉、ほっこり行動に取り組むことができる子供～

第13号

令和 6年 3月8日
仙台市立将監中央小学校
TEL：372-1276
児童数462名(3/8現在)

「将監中央小学校をよりよくするアンケート」についてのお知らせ

春暖の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて「将監中央小学校をよりよくするアンケート」の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。12月にwebを利用したアンケートを行い、153名の保護者の皆様に御回答いただきました。アンケートの結果と御意見から、保護者の皆様が将監中央小学校を温かく見守っていただいていること、そして、共によりよくしていこうと考えてくださっていることが分かりました。本当にありがとうございます。

学校では、今年度の反省を行い、1月には学校運営協議会の皆様に本校の教育活動について説明し、御意見を頂戴したところです。今回の保護者の皆様方の御意見を来年度の学校運営に生かしながら、教職員一丸となってよりよい学校作りに努めてまいりたいと考えております。

つきましては、今後とも、温かい御支援と御協力をよろしくお願いいたします。なお、本校の教育についてお気付きの点がございましたら、いつでもお気軽に御連絡いただければ幸いです。

☆「将監中央小学校をよりよくするアンケート」結果の概要（令和5年12月実施）

実施日：令和5年12月 回答数153名 回答率：33%

今年度のアンケートの結果、保護者の皆さまの評価で特に高かったのが以下の14項目です。

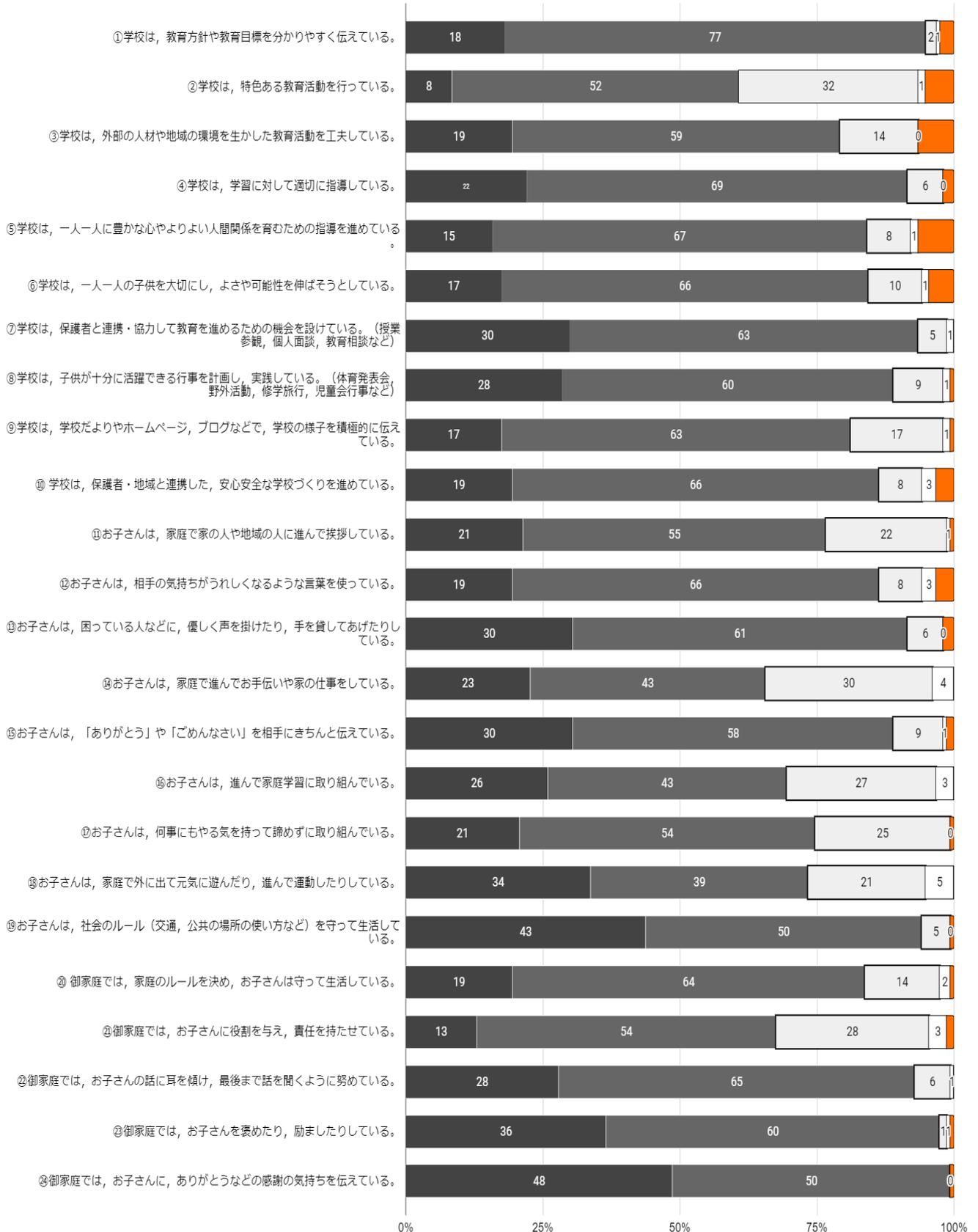
- ・学校は、教育方針や教育目標を分かりやすく伝えている。
- ・学校は、学習に対して適切に指導している。
- ・学校は、一人一人に豊かな心やよりよい人間関係を育むための指導を進めている
- ・学校は、一人一人の子供を大切にし、よさや可能性を伸ばそうとしている。
- ・学校は、保護者と連携・協力して教育を進めるための機会を多く設けている。
(授業参観, 個人面談, 教育相談など)
- ・学校は、子供が十分に活躍できる行事を計画し、実践している。
(体育発表会, 野外活動, 修学旅行, 児童会行事など)
- ・学校は、保護者・地域と連携した、安心・安全な学校づくりを進めている。
- ・お子さんは、相手の気持ちがうれしくなるような言葉を使っている。
- ・お子さんは、困っている人などに、優しく声を掛けたり、手を貸してあげたりしている。
- ・お子さんは、「ありがとう」や「ごめんなさい」を相手にきちんと伝えている。
- ・お子さんは、社会のルール（交通、公共の場所の使い方など）を守って生活している。
- ・御家庭では、お子さんの話に耳を傾け、最後まで話を聞くように努めている。
- ・御家庭では、お子さんを褒めたり、励ましたりしている。
- ・御家庭では、お子さんに、ありがとうなどの感謝の気持ちを伝えている。

逆に、評価の低かった項目は、以下の7項目でした。

- ・学校は、特色ある教育活動を行っている。
- ・お子さんは、家庭で家の人や地域の人に進んで挨拶をしている。
- ・お子さんは、家庭で進んでお手伝いや家の仕事をしている。
- ・お子さんは、進んで家庭学習に取り組んでいる。
- ・お子さんは、何事にもやる気を持って諦めずに取り組んでいる。
- ・お子さんは、家庭で外に出て遊んだり、進んで運動したりしている。
- ・御家庭では、お子さんに役割を与え、責任を持たせている。

保護者アンケート集計

■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない ■ 分からない



<協働型学校評価について>

○令和5年度 協働型学校評価の重点目標

「進んで関わりを持ち、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成」
～進んで挨拶、あったか言葉、ほっこり行動に取り組むことができる子供～

★「進んで挨拶」について

「お子さんは、家庭で家の人や地域の人に進んで挨拶している。」については、76%の方から、そう思う・だいたいそう思う、23%の方から、あまりそう思わない・そう思わないとの回答いただいております。児童は、93%ができていますと回答しました。

学校内での児童の様子から、来客者に対して、立ち止まって挨拶をしたり、丁寧におじぎをしたりする姿が見られ、気持ちの良い挨拶ができるようになってきています。少しずつ定着してきていますので、自分から進んで挨拶をする姿が御家庭や地域にも広がるとよいことを伝えていきます。

★「あったか言葉」について

「お子さんは、相手の気持ちがうれしくなるような言葉を使っている。」については、85%の方から、そう思う・だいたいそう思う、11%の方から、あまりそう思わない・そう思わないとの回答いただいております。児童は、91%ができていますと回答しました。

多くの児童が、相手のことを気遣った言葉を話そうとしています。言葉の使い方ひとつで相手の気持ちがよくなることや、自分が言われたらうれしい言葉、場面に合わせた言葉などを考え選びながらとるコミュニケーションの大切さを、来年度も指導していきます。

★「ほっこり行動」について

「お子さんは、困っている人などに、優しく声を掛けたり、手を貸してあげたりしている。」については、91%の方から、そう思う・だいたいそう思う、6%の方から、あまりそう思わない・そう思わないとの回答いただいております。児童は、91%ができていますと回答しました。

学校生活でも周囲の友達に手助けをしたり、困っている人に優しく声を掛け、一緒に活動したりしている様子が見られます。ある時は、登下校時に転んだり体調が悪くなってしまった子に、声を掛けたり世話をしたりしていたという地域の方からうれしいお話もいただきました。このような行動が自然とできるように、声掛けを続けていきます。

<学校について>

★「学習指導・生活指導」について

「学習に対して適切な指導」については、91%、
「豊かな心やよりよい人間関係をはぐくむための指導」については、82%、
「一人一人を大切に、よさや可能性を伸ばそうとする指導」については、83%の方から、そう思う・だいたいそう思うとの回答をいただいております。

今年度は、授業や家庭学習の中でクロームブックを活用した活動を、どの学年も多く取り入れています。より効果的な学習活動になるように、学習内容や方法を工夫しながら今後も進めてまいります。

また、児童のよりよい人間関係をはぐくみ、互いに認め合う機会を、学習や学校生活の中で工夫して取り入れています。学校行事での児童の活躍はもちろん、各学級の係活動や休み時間等の様子から、友達と声を掛け合いながら協力して活動している姿が多く見られます。今後も児童が生き生きと活動できるよう、児童に寄り添った指導を工夫していきます。

また、いじめアンケートや児童の学級での様子を見守り、小さな変化に気を配りいじめの未然防止に努めてまいります。

○「学校行事」について

「保護者と連携協力して教育を進める機会」については、93%の方から、また、「子供が十分に活躍できる行事の計画・実践」については、88%の方から、そう思う・だいたいそう思うとの回答いただいております。

今年度は、年度当初は感染対策を行いながら、5類になってからはできる限り、児童の活躍の場が制限されることのないよう、行事に取り組んでまいりました。また、年度当初に、学校から御説明しました通り、学習指導要領改訂による児童の授業時数の増加により、学校行事の精選と工夫を行ってまいりました。その中でも体育発表会や音楽学習発表会を、全校同日に一緒に行うことができ、保護者・地域の皆様にも子供たちの活躍する姿をお見せすることができました。また、各学年の校外学習やゲストティーチャーやボランティアを招いての学習も、予定通り行うことができました。限られた学習時間ではありますが、今後も、子供たちが活躍できる場を工夫していきます。

また、防犯対策についても、御意見をいただきました。学校の現状の設備や人員の中で、どのような対策がとれるか確認しながら、子供たちの安全が図れるように計画をしていきます。

テトルの活用等についても、御意見がありました。来年度より学びポケットの活用となりますので、そちらを充実させていきたいと思っております。

<お子さんについて>

○「優しい声掛け」「感謝や謝罪の気持ちを伝える」「社会のルールを守る」ことに関しては、できているという見方を、多くの保護者の方がしております。

反面、「手伝い」「家庭学習」「根気強さ」に関しては、昨年度同様、あまりできていないと感じている保護者の方が、他の項目よりも多くおりました。

協働型学校評価の欄でも書きましたが、お手伝いをしたり、困っている子に優しく手を差し伸べたりすることが好きな子が多くいます。学校での様子をお子さんとお話ししながら、今後もお子様を励ましていただければと思います。

<御家庭について>

○「家庭のルール」「お子さんとの会話」「褒める・励ます」「感謝を伝える」の項目について、9割以上の御家庭で、高い回答をいただいております。児童も同じく、約8~9割ができていると回答しました。

保護者の皆様の回答で、「お手伝い」についてが、66%の方から、そう思う・だいたいそう思う、34%の方から、あまりそう思わない・そう思わないとの回答いただいております。保護者の皆様の回答で、「お子さんに役割を与え責任を持たせている」では、そう思う・だいたいそう思う、という方が67%と、同様の割合でした。一方児童は、88%が「お手伝い」できていると回答しました。

保護者の方と児童の回答に差があることから、お手伝いや家での役割についての認識が違っているのかもしれませんが、御家庭で話題にしながら、子供たちが達成感や家族の一員としての所属感が得られるとよいと思っております。